



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リサーチ・アドミニストレーター(URA)を
育成・確保するシステムの整備
(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

東京大学

リサーチ・アドミニストレーター推進室



本事業の背景と目的

■ 背景

- 研究活動の効率化のためにURAを活用したマネジメント体制の確立が不可欠
- マネジメント職に対する共通理解が無く、職務領域の確立やキャリアパス等に課題

■ 目的

- URAを採用・配置して研究支援体制の強化を図る
- URAを職種・職域として定着を図る
- 人事制度等を具体的に検討し、より高度な研究活動マネジメント体制を整備する

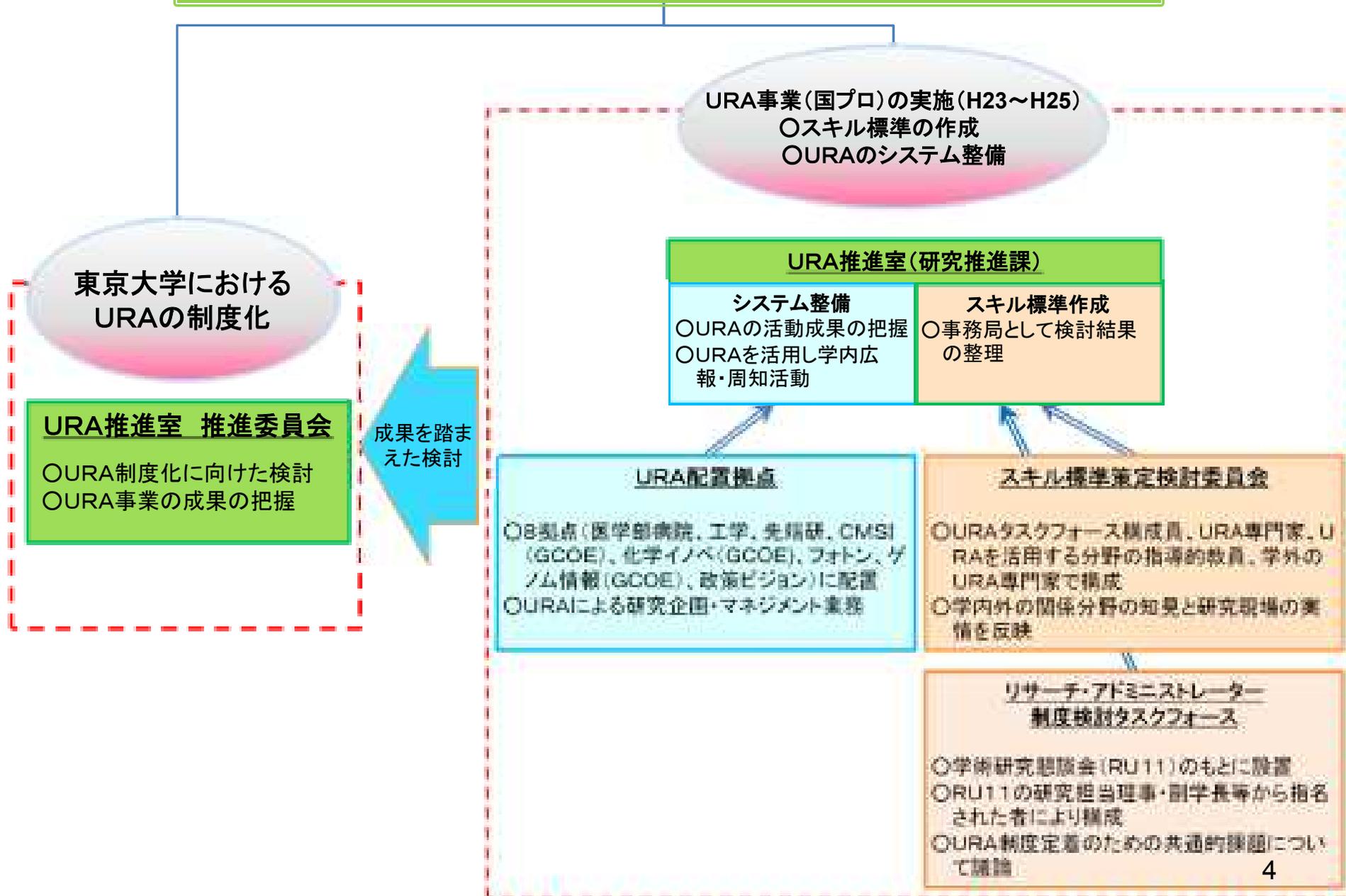


URAの実施体制の構築

- ◇ URA推進室の設置
- ◇ URAの試行配置

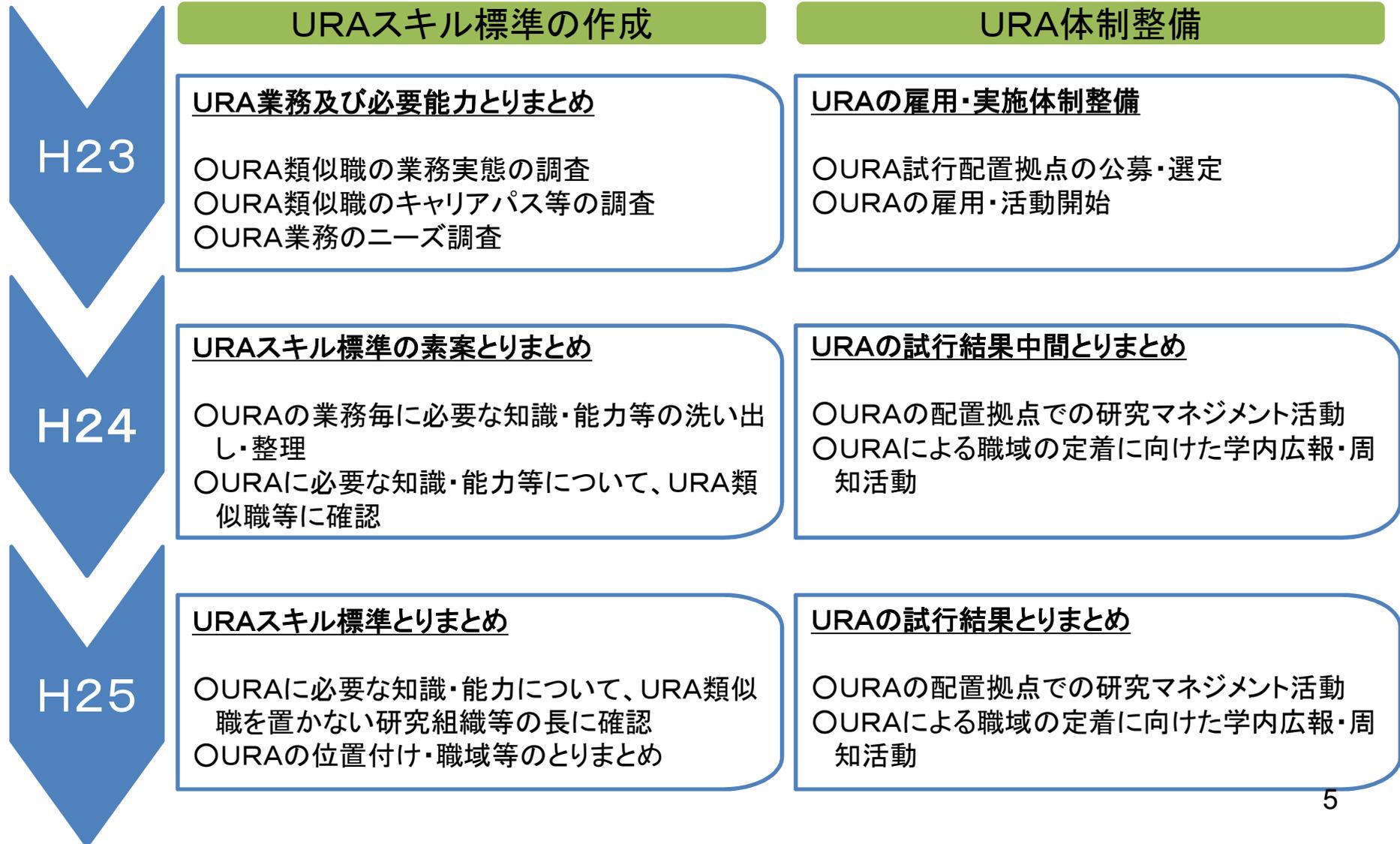
リサーチ・アドミニストレーターに関する取組み実施体制

リサーチ・アドミニストレーター推進室





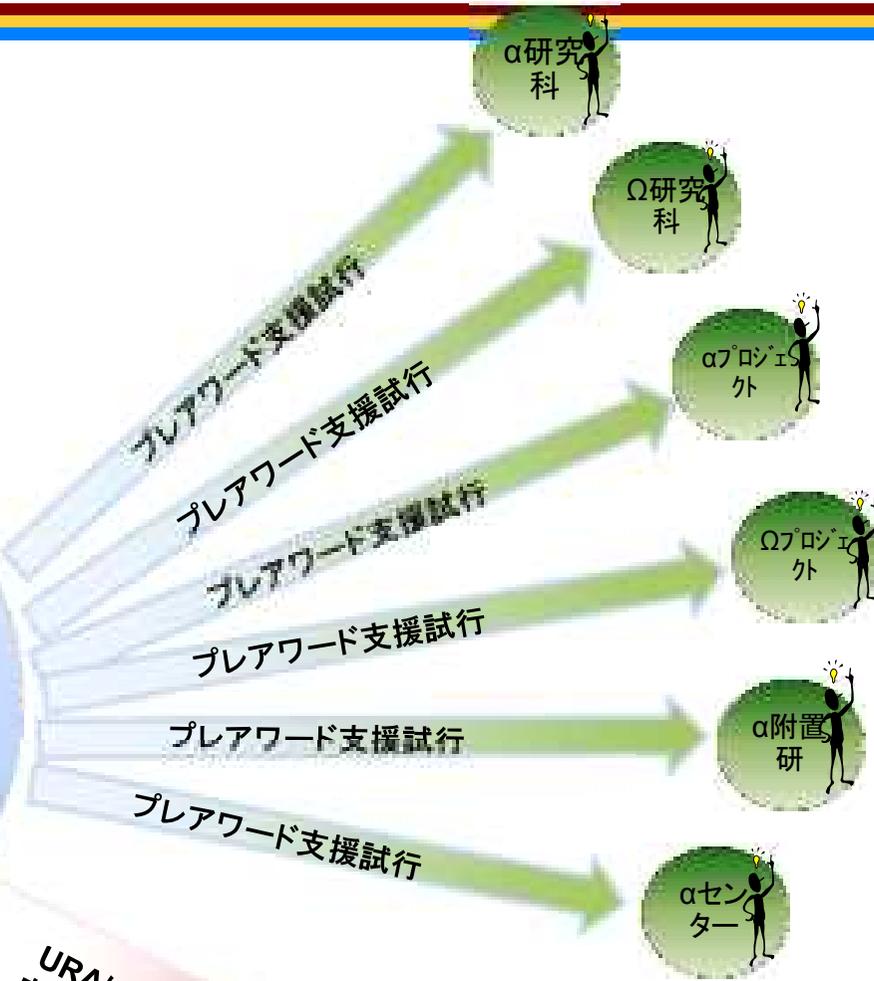
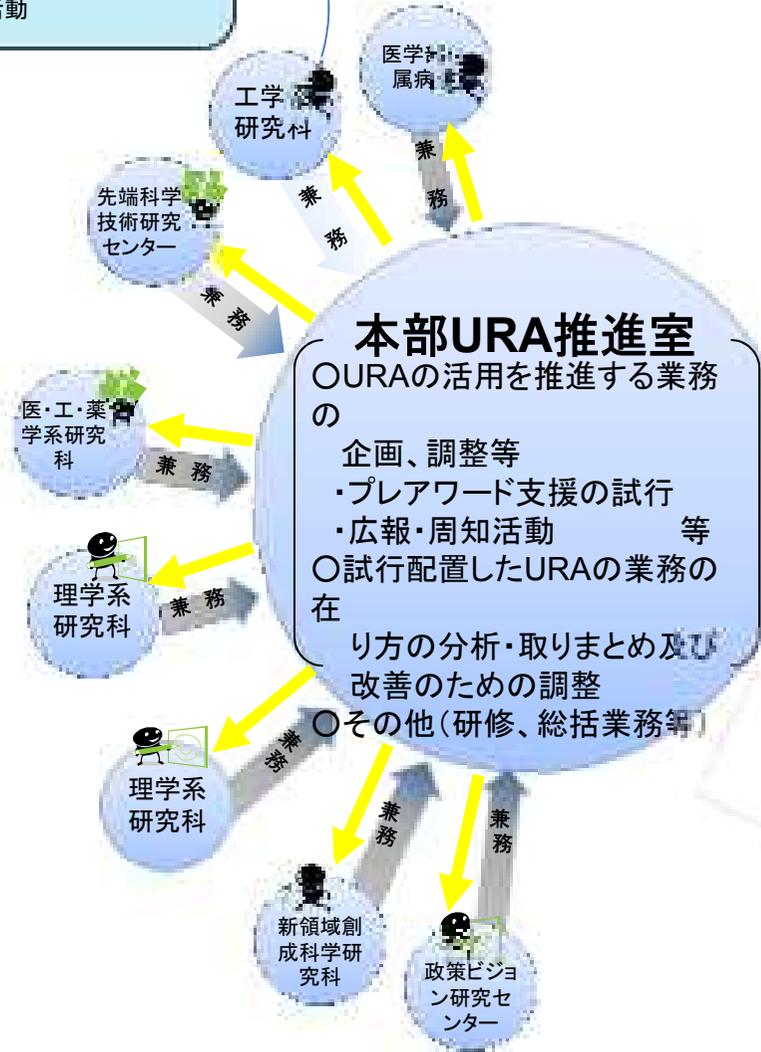
リサーチ・アドミニストレーター事業計画





URA制度化に向けた試行配置

URA
・各拠点における研究
企画・マネジメント
・本部URA推進室での
活動



URAに関する
広報・周知活動

- プレアワード支援試行の周知
- 研究者への職種としてのURAの周知・理解増進
- 研究者側の研究マネジメントに関するニーズ把握
- OURA候補人材の発掘



リサーチ・アドミニストレーター名簿・配置拠点

| 拠点名 | 所属学部、研究所等 | 職位等 | URA氏名 |
|---------------------------------------|--------------|--------------------|--------|
| 医学部附属病院 戦略開発推進室 | 医学系研究科 | 特任研究員 | 山上 圭司 |
| 工学系研究科 | 工学系研究科 | 特任専門員・ 学術支援室副室長 | 野田 正彦 |
| GCOEプログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション」(CMSI) | 政策ビジョン研究センター | 特任専門員 | 大内 聡美 |
| 理学系研究科及び化学専攻 | 理学系研究科 | 特任研究員 | 林 輝幸 |
| フotonサイエンス研究機構 | 理学系研究科 | 特任研究員 | 山野 真裕 |
| GCOEプログラム「ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏」 | 新領域創成科学研究科 | 特任研究員 | 水谷 健太郎 |
| 先端科学技術研究センター | 先端科学技術研究センター | 特任教授 | 山下 秀 |
| 政策ビジョン研究センター | 政策ビジョン研究センター | 特任専門職員 | 村上 壽枝 |



URAの定着に向けた取組

- ◇ プレアワード試行支援
- ◇ URAの広報・周知
- ◇ URAによる成果
- ◇ 研究企画・支援組織の例



プレアワード試行支援

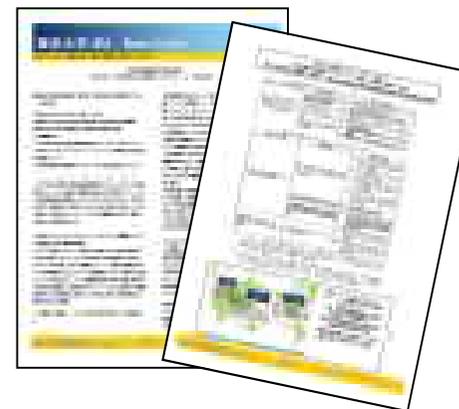
若手研究者向け競争的資金獲得やキャリアパスの書籍作成

若手研究者に向けた研究者としての在り方や外部資金の獲得の術などをまとめた電子書籍「競争的資金を獲得するための研究生活とキャリアパス」を作成。



科学技術政策や研究動向に係る情報収集・提供

科学技術政策や競争的資金等に関する政府の様々な審議会等にURAが出席、傍聴し、会議の要旨を付して資料を学内に情報提供。



外部資金制度の説明・申請講習会の開催

若手教員等を対象に各種の外部資金制度について、制度説明、申請書の書き方などに関する講習会を順次開催。説明会后、申請書の添削や個別の相談等にメール等で対応。

実施対象:

- 医学系研究科
- 医学部附属病院
- 理学系研究科
- 工学系研究科
- 情報理工学系研究科
- 新領域創成科学研究科
- 柏キャンパスの附置研究所



URA業務に関する研修等の実施

学内のURA類似職、URAに関心のある教職員を対象に、大型研究プロジェクトでの研究マネジメント業務経験者から研究マネジメントの実際・手法について講演会を開催。

東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 中村 健蔵 事務部門長・特任教授
京都大学iPS細胞研究所 石井 哲也 元研究統括室長

また、URAの定期会合に学内外の研究マネジメント業務経験者を呼び研究マネジメントの実際・手法について説明聴取、意見交換を実施。





URAの周知・広報活動

- 多様な機会をとらえて、学内の教職員へのURAの周知や意見収集を進めている。
- 周知等の場
 - URA配置拠点代表者会議
 - URA室員会議
 - 研究科長、教授会等
 - 総長補佐会
 - 新任部局長研修
 - 新任教職員研修
 - 新人職員研修





URAによる支援の成果（平成24年度）

プレ・アワード

獲得プロジェクト数：

11件

獲得プロジェクト補助・委託額：

65億円

獲得した外部資金等の例

- ・国際科学イノベーション拠点事業
- ・博士課程リーディングプログラム
- ・卓越した大学院拠点形成補助金
- ・第三回化学人材育成プログラム

ポスト・アワード

支援プロジェクト数：

18件

支援プロジェクト補助・委託額：

33.4億円

支援した外部資金プロジェクト等の例

- ・グローバルCOEプログラム
- ・博士課程教育リーディングプログラム
- ・NEDO「循環社会構築型光触媒産業創成プロジェクト」
- ・先端研コンソーシアム「高信頼性・高温材料研究開発拠点」



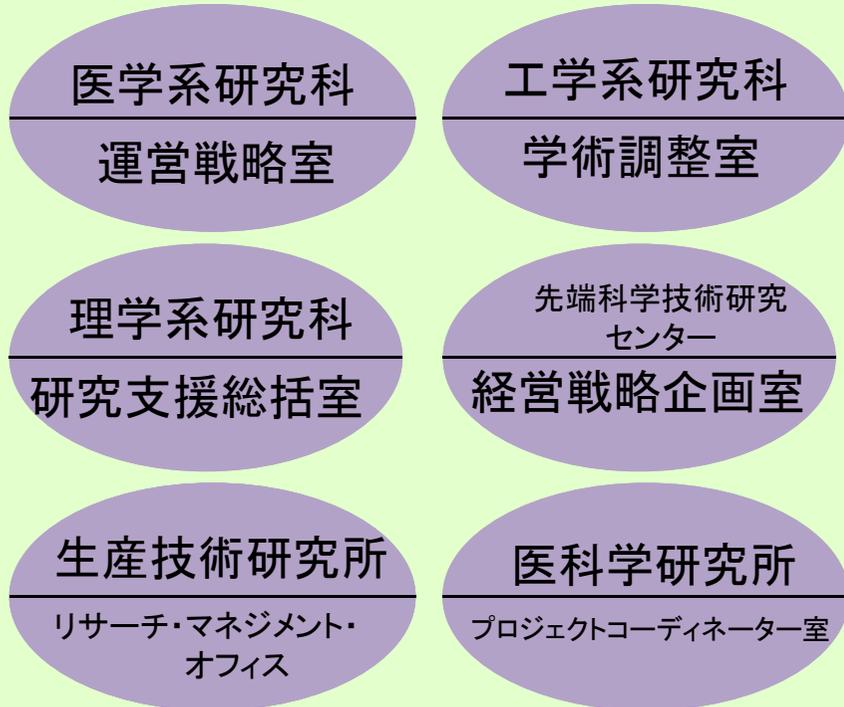
東京大学における研究企画・支援組織(URA組織)の例

法人化以降、組織的な研究企画・立案、支援等の必要性が増大。本事業を含め、様々な機会をとらえ、本部、研究科などそれぞれにおいて研究企画・支援組織が設置されつつある。

本部組織におけるURA組織



研究科等におけるURA組織

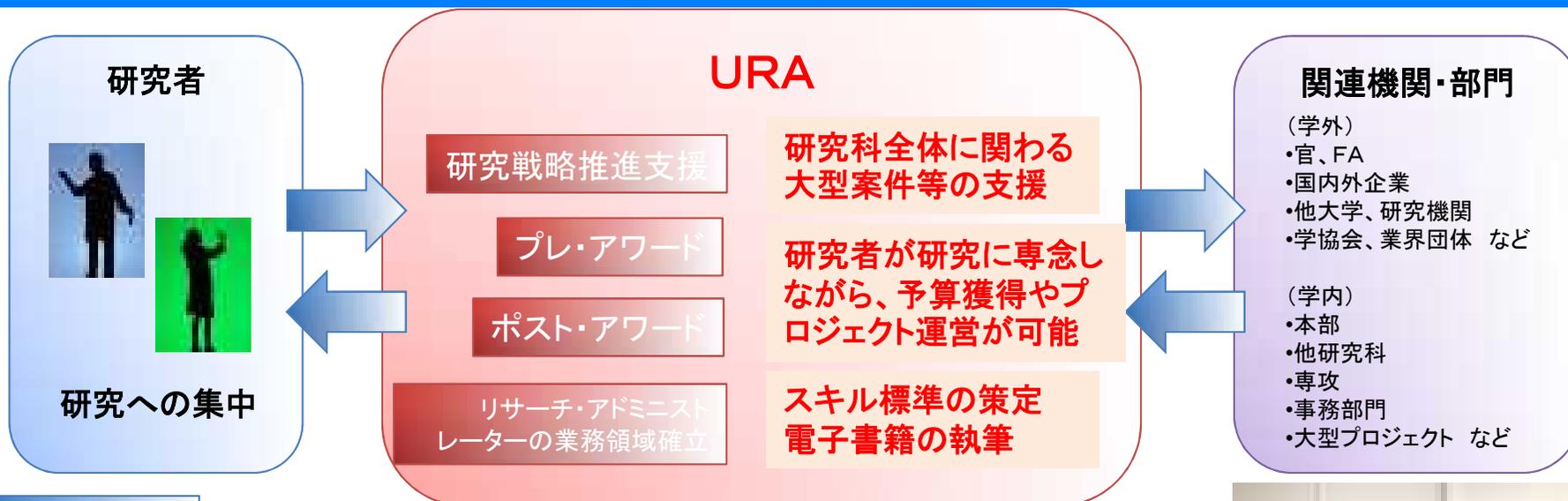


大型プロジェクトにおけるURA組織

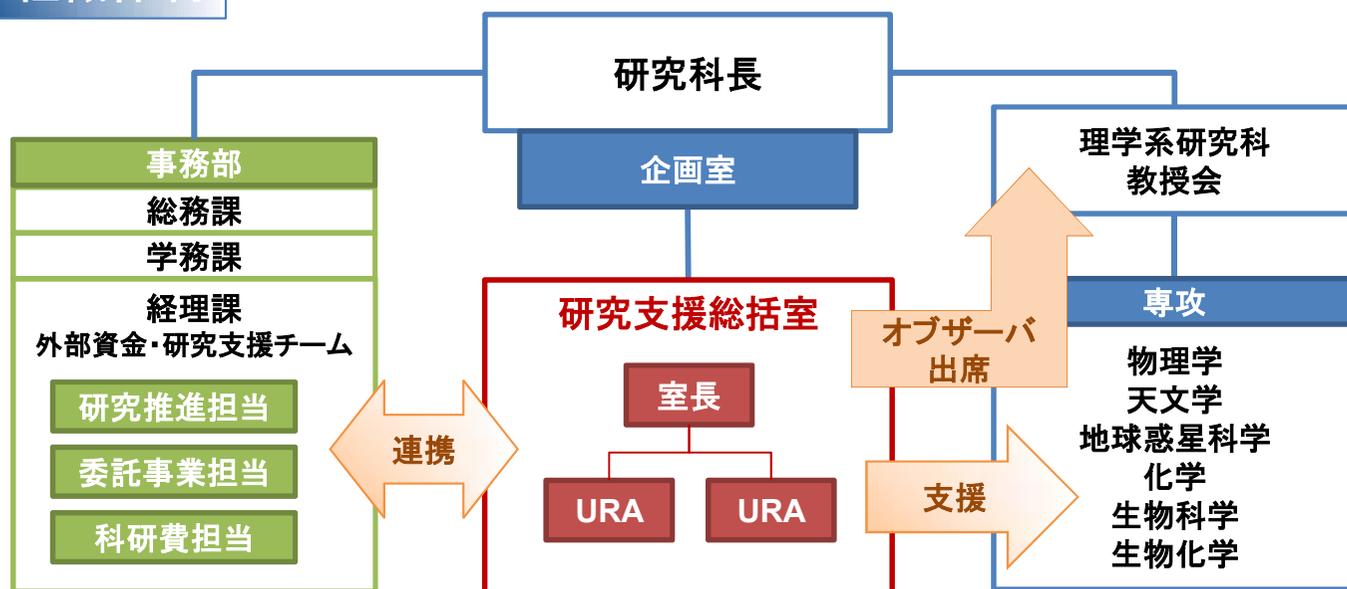




理学系研究科 研究支援総括室の設置



組織体制



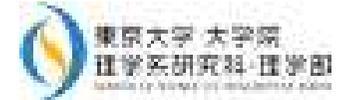
山内薫 研究支援総括室長
副研究科長、化学専攻教授。

林輝幸 特任研究員/URA
化学専攻 特任教授等を経て現職。
博士(理学)。

山野真裕 特任研究員/URA
NTT、国立精神・神経センター等を経て現職。博士(医工学)。



理学系研究科 研究支援総括室の取り組み

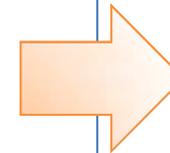


理学系研究科の国際的競争力強化の支援

論文の引用動向からみる日本の研究機関ランキング(2010年、トムソン・ロイター社)より
【対象期間】 1999年1月1日～2009年12月31日(11年間)

東京大学

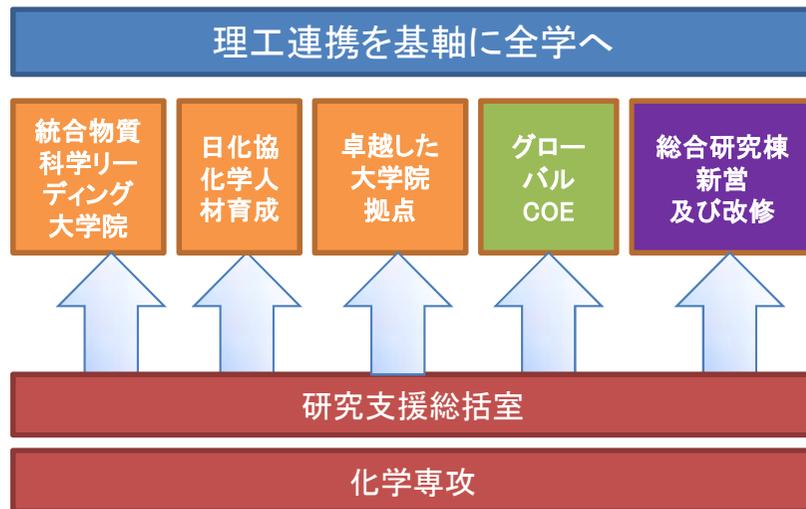
- 物理学/Physics(686機関): 世界順位 2
- 化学/Chemistry(950機関): 世界順位 4
- 生物学・生化学/Biology&Biochemistry(720機関): 世界順位 3



学問分野を超えた連携の重要性
理学系総体としての強化
国際的な競争力のさらなる向上

URAの活動(1)

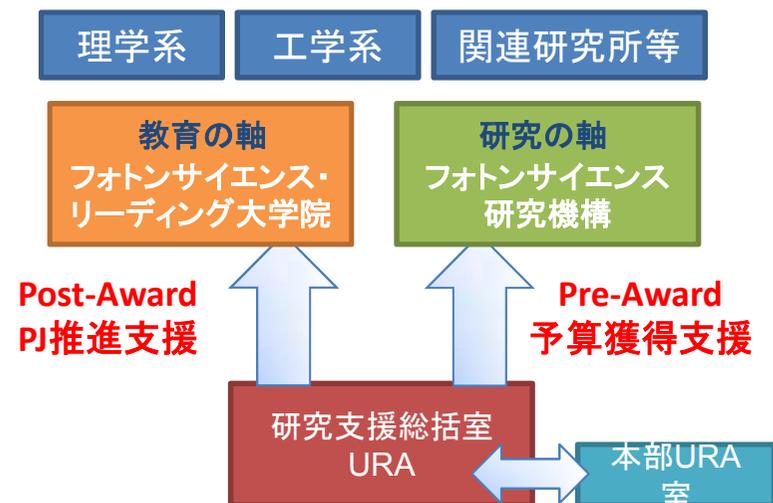
化学を基盤とする世界的研究教育拠点の形成



Pre-Award(予算獲得支援)と高い評価を得るPost-Award
(プロジェクト運営支援)

URAの活動(2)

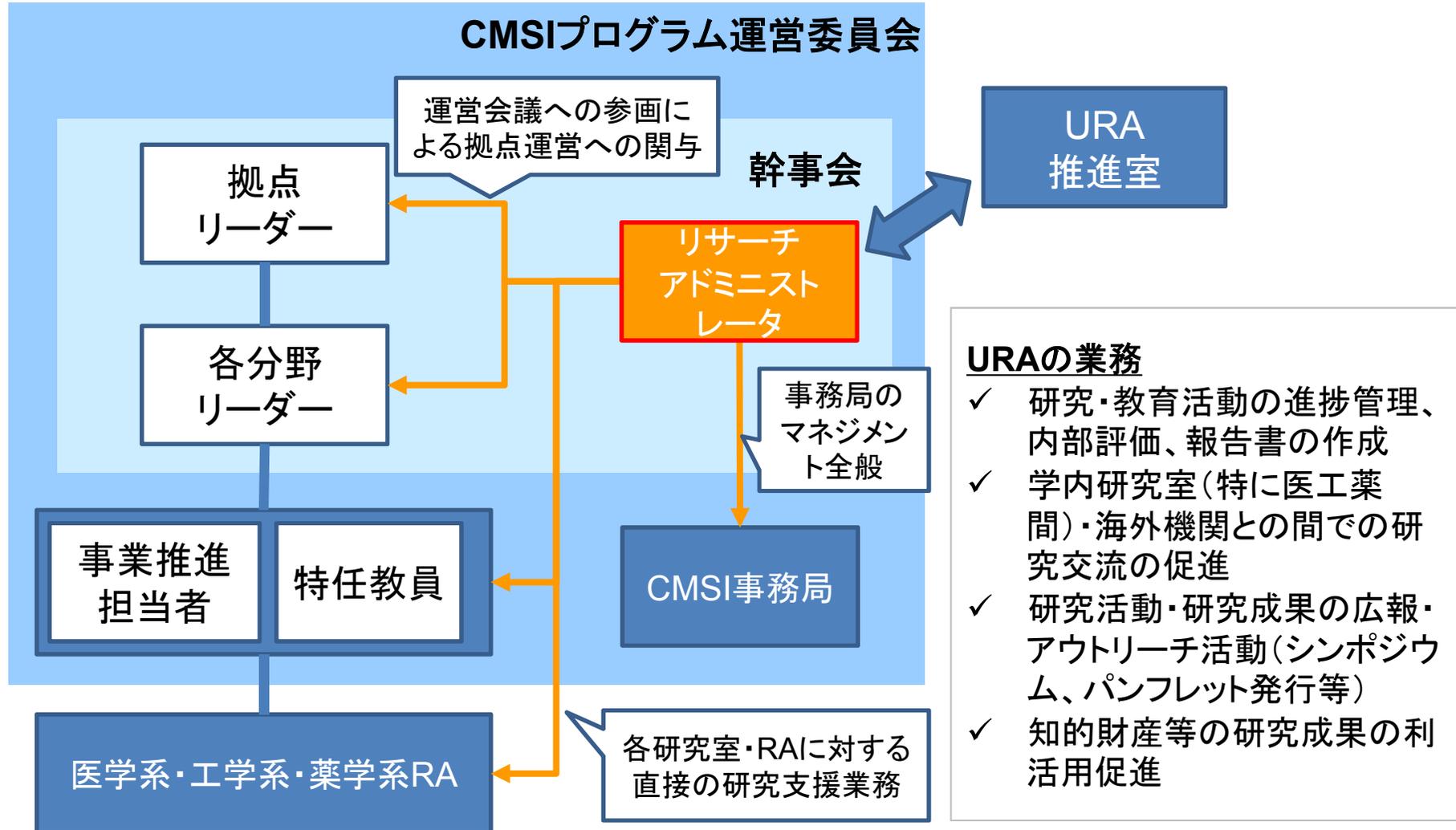
世界を先導する光科学融合的研究教育拠点の形成



全学的拠点形成に向けた支援

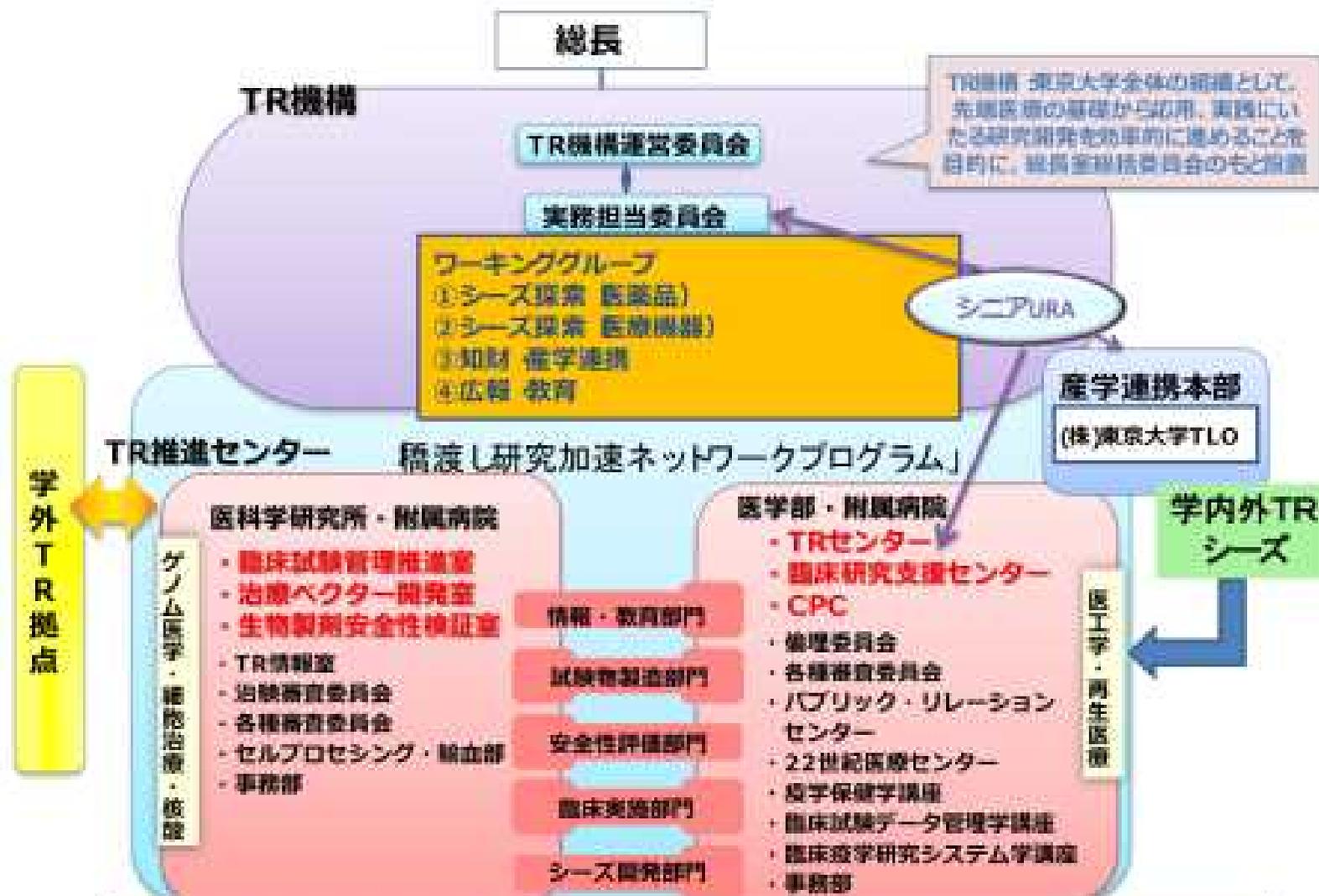


グローバルCOEプログラム 学融合に基づく医療システムイノベーション





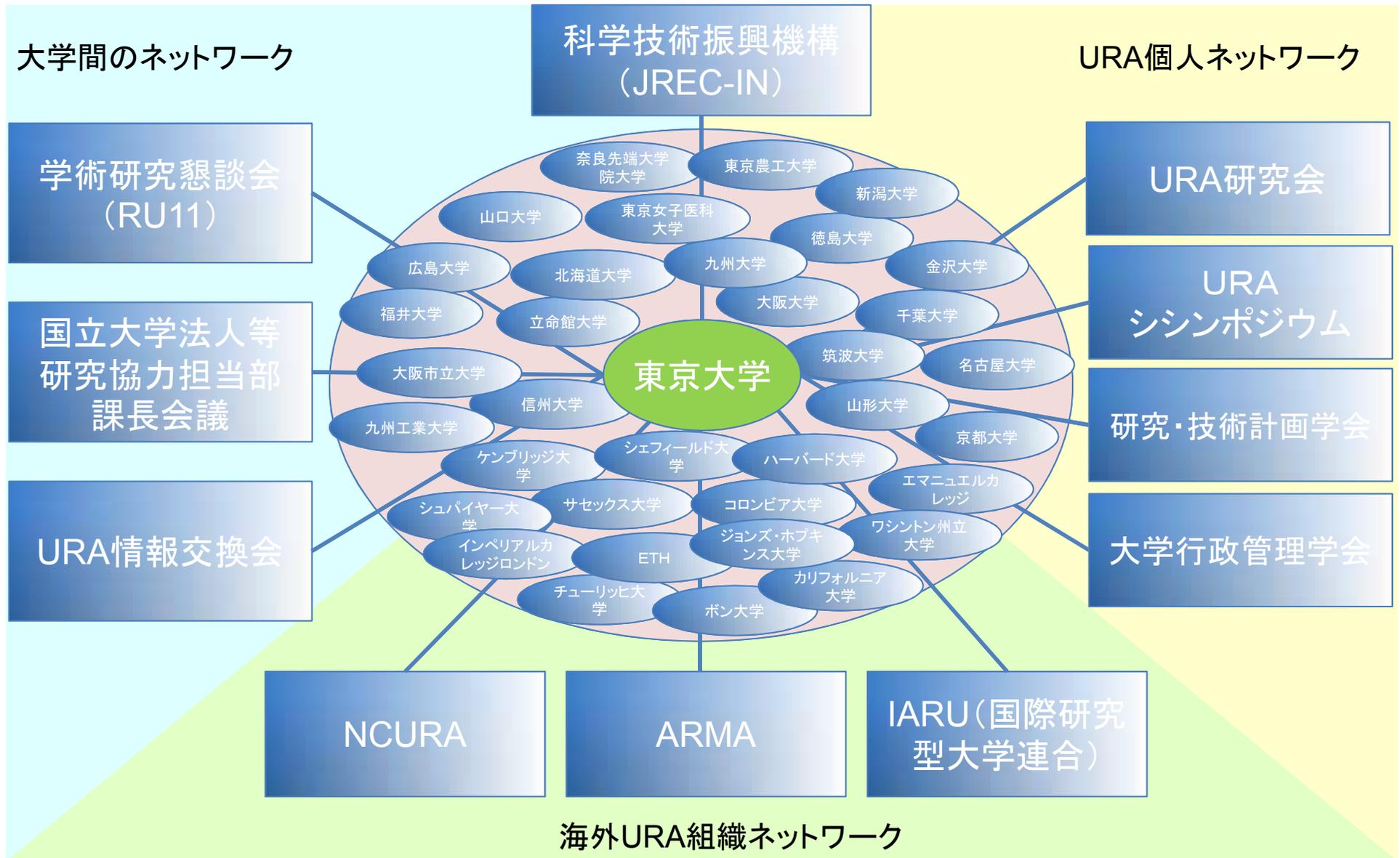
医学部附属病院 トランスレーショナル・リサーチセンター



URAはTR機構の実務担当委員会のワーキンググループを軸として**新シーズ探索、育成と産学連携の企画**を中心にTR体制の構築と強化に努めている

国内外のURAのネットワーク構築に向けた取り組み

多様な機会をとらえて、国内外の大学やシンポジウム、学会等でURAの制度設計に関する意見交換・情報共有、本学の取組みの紹介、日本の取組みの紹介などを行い、積極的にネットワークを構築している。





URAスキル標準作成事業との連携

- ◇ スキル標準の構成等
- ◇ スキルカード



スキル標準:スコアカード

プレアワード ①研究プロジェクト企画立案支援

| 業績評価指標 | |
|--|--|
| 以下の条件の実績と経験を有する。 | |
| ①責任性 | <p>実績あるいは経験を定義した「業績評価指標」</p> <p>①責任性→どのような責任で</p> <p>②複雑性→どのような仕事を</p> <p>③重要性→業務の成果</p> <p>④学内外貢献→大学、業界全体への貢献</p> |
| □ 1. 主担当者として対応した。 | |
| ②複雑性 | |
| 以下のいくつかを自律的に、複数 | |
| □ 1. 国の科学技術政策や次年度 | |
| □ 2. 研究者(又は、研究グループ)の研究構想(プロジェクトの目的・内容・特徴・体制・必要資金額等)やコアコンピタンスを把握した。 | |
| □ 3. 研究グループが特に研究企画立案(分野融合、文理融合等の研究)を行う際に、人脈を使ったり部局長への相談などにより、適切なメンバーを提案することができた。 | |
| □ 4. 外部資 | |
| □ 5. 研究 | |
| □ 6. プロ | |
| □ 7. 国の政 | |
| □ 8. 研究 | |
| ③重要性 | |
| 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 | |
| □ 1. 研究企画案がプロジェクト・チーム立上げに活かされ、質の高い申請資料の作成に繋がった。 | |
| □ 2. 分野融合、文理融合などこれまで進んでいないプロジェクトの形成が進むようになった。 | |
| □ 3. 提案した | |
| □ 4. 学内外貢 | |
| 以下のいくつか | |
| □ 1. 学内か | |
| □ 2. プロ | |
| □ 3. プロ | |
| □ 4. 学内外 | |
| ⑤その他 | |
| 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 | |
| □ 研究者の意見に安易に追随せず、倫理、コンプライアンス、安全衛生、知的財産の確保その他研究プロジェクト企画に必要な内容を的確に整理した。 | |

| 業務遂行能力評価指標 | |
|---|--|
| 以下の条件の能力を有する。 | |
| ①事業 | <p>知識等をベースにした理解力または問題解決能力を定義した「業務遂行能力評価指標」</p> <p>①事業→担当業務のミッション理解</p> <p>②知識→関連の法律、規則、技術の理解</p> <p>③実務→業務遂行に必要な知識</p> <p>④語学→必要な英語力</p> <p>⑤対人関係の構築・コミュニケーション能力</p> |
| □ 1. プロジェクトにおける自己 | |
| □ 2. 国の政策や外部資金の方向性を理解している。 | |
| ②知識 | |
| □ 1. 外部資金申請の枠組み | |
| □ 2. 公募要領等に記載される外部資金に係わる遵守すべき法律(例:補助金適正化法)、規則、契約内容などを理解している。 | |
| □ 3. 特定分野の専門知識を有し、プロジェクトに係わる科学技術の概要を理解している。又は、調査し、把握することができる。 | |
| □ 4. プロ | |
| □ 5. 研究の | |
| □ 6. 研究成 | |
| ③実務 | |
| □ 1. プロ | |
| □ 2. プロ | |
| □ 3. 前記に | |
| □ 4. 所定の期日までに関係者が業務を終わるよう業務進行管理ができる。 | |
| ⑥その他 | |
| □ 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して期日までに業務を遂行できる。 | |

- 活用について(システム整備として)
 - URA自身が現状把握、必要な能力の理解
 - 配置拠点が組織としての現状把握、個人の人材育成・評価
 - 各大学の事情や特性に合わせる事が必須



東京大学におけるURA制度設計

- ◇ 学内・学外の人的資源を活用した研究支援環境の整備
- ◇ 研究支援人材(URA)による研究支援体制の整備
- ◇ 研究推進担当職員の専門職(URA)化
- ◇ URAのキャリアパス構想